**平成28年度放射線安全取扱部会年次大会（第57回放射線管理研修会）**

**いいね鎌倉―主任者よ立ち上がれ―の報告**

　共通機器部門　放射線管理技術班

宗岡　亜依

1. **はじめに（目的等）**

本大会は全国の放射線管理業務に携わる放射線取扱主任者・実務担当者を対象とした資質の向上を図るための研修会である。更なる知識の習得と他機関の放射線関連業務に携わる関係者との交流を深めることを目的として参加した。

1. **期間・場所**

期間：平成28年11月10日～11月11日（2日間）

場所：鎌倉芸術館 （神奈川県鎌倉市）

1. **参加者等**

参加人数：放射線取扱主任者並びに放射線安全管理実務担当者等397名

1. **研修内容**

2日間にわたって行われた。内容としては次のとおりである。

●11月10日：部会・総会、平成28年度放射線安全取扱部会表彰式、特別講演Ⅰ「放射線安全管理行政の動向」、ポスター発表、シンポジウムⅠ「放射線利用の品質保証制度導入にむけて」、交流会

●11月11日：特別セッション「高校生による放射線研究発表」、特別講演Ⅱ「113番新元素（ニホニウム）の発見」、シンポジウムⅡ「最先端のガン治療と研究」、私の意見・支部の意見、大会のまとめ・次回大会紹介

1. **まとめと感想**

このたびの大会に参加し様々な話しを聞いたのだが各界をリードする人達の話しはどれも興味深く刺激のある内容ばかりだった。今回の大会で印象的だったのは若手の取り込みと育成をいかに進めるかというところである。部会員数は世代交代に伴い年々減少している。若い世代を放射線業界に取り込むためには早い時期（子どものうち）から放射線教育を行い、関心を持たせることが重要であるとわかった。新たな試みとして福島原発事故をテーマとした高校生による放射線研究発表があったのだがこうした取り組みは大変意味深いものであるように感じられた。時代とともに放射線施設の担う役割が変化していく中で施設の管理だけにとどまらず教育面での強化を行うことが肝心であると気付かされた。

ＲＩセンターは学外向けの放射線教育を行っているので今後も持続していくことが重要であるように感じられた。